

看護学校におけるチュートリアル教育

チュートリアル教育とは：もともとは小数の生徒に教師が個別に教育すること。日本では問題解決型の教育を指すことが多い。医学部、看護学部などでも多数の施設で導入されている。

一方的に講義を聞くのではなく、生徒が自ら学び、まとめて、他人に教える。自己学習、グループ協調、責任感、プレゼン、質問などを学び体験する。担当教師をチューターと呼び、適宜指導する。

学生をグループに分ける 資料はグループ全員で作成、発表者、質問者、回答者を決める

事前準備 グループ作成、課題を事前に出す 各課題について事前に勉強する

以下の内容をまとめ、資料を作成する

発表の2週間前までに提出し、修正をうける。PCで授業当日に発表する。

1. グループ番号 タイトル メンバー氏名
2. 原因、病態生理
3. 頻度、好発年齢、性別
4. 症状
5. 診断方法
6. 検査所見
7. 治療方法
8. 予後
9. 問題クイズ2問 （回答は記載しない） 正解と思う選択肢で挙手してもらう

スライドは文字を大きく、1枚に詰め込みすぎない 多い場合は2枚に分ける
適宜、図や表をいれる。出典を明記する。信頼のできる出典を選ぶ。

各グループごとに発表10分+質疑応答+解説5分で15分程度

質問は指定された2つのグループが必ずする